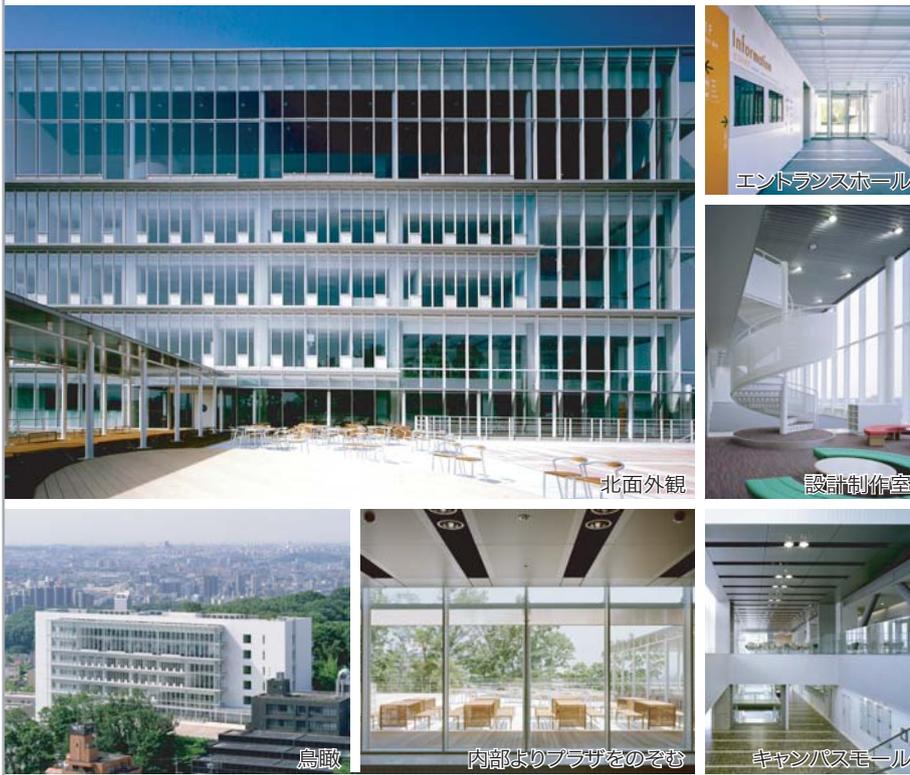


椋山女学園大学生生活科学部棟が竣工しました。

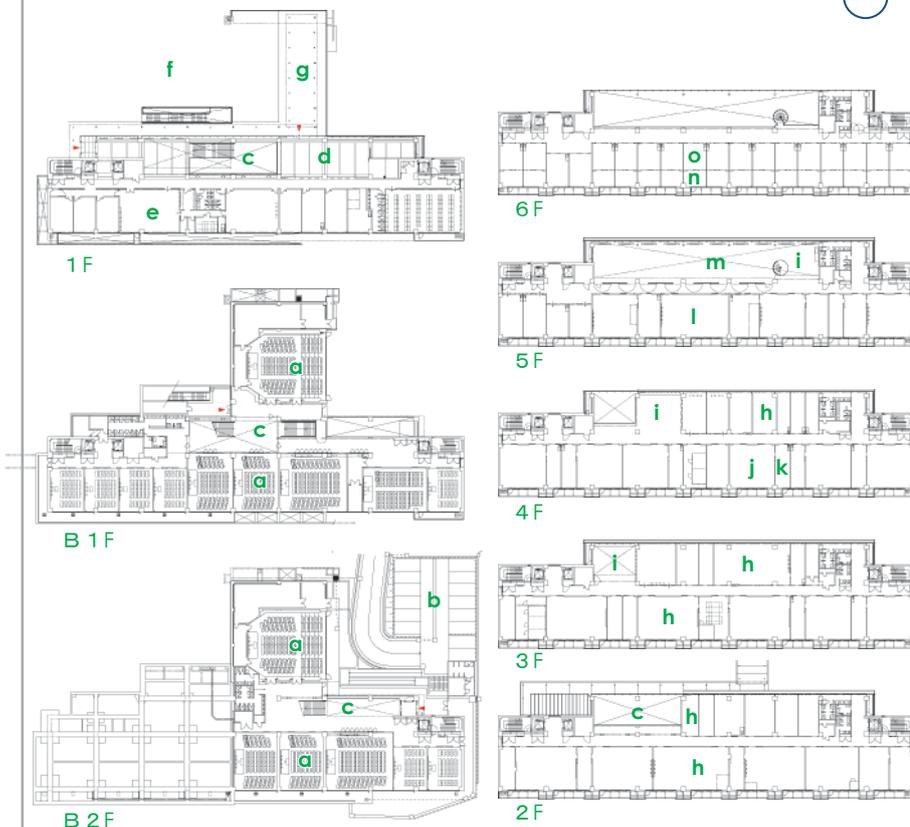


CONCEPT

「レベル差を解消し、交流を生み出すひらかれた共用空間」

学園100周年を期に、老朽化した旧校舎に代わり、東山公園の尾根と連続する緑豊かな高台に建設された新棟です。4層に渡るカスケード状の交流空間「キャンパスモール」と交流広場「プラザ」を核とし、研究内容が大きく異なる二学科を明快な構成で一棟にまとめています。大スパンの南側には教授室や重設備の実験室、北側にはゼミ室やアトリエ等の比較的ライトな室を配置しています。この他北側には廊下等共用部の再構築により生まれた「ラウンジ」が配され、重層した吹抜や視線の抜けを創り出すことで中廊下型プランの閉鎖感を払拭し、学科を超えた交流を生み出します。南側の設備バルコニーと目隠しルーバーによる実験棟仕様の外観とは違って、プラザに面する北側は内部のアクティビティをプラザに伝えるガラスカーテンウォールで立面を構成しています。構造的には、各階の剛性バランスを確保するためのアンボンドプレートによるオープンな構造フレームを採用し、将来の変化に対応可能なフレキシビリティを持った建物となっています。

PLAN



- a. 講義室
- b. 駐車場
- c. キャンパスモール
- d. 学生控室
- e. 事務室
- f. プラザ
- g. パビリオン
- h. 実験・実習室(食品栄養学科)
- i. ラウンジ
- j. 研究室(食品栄養学科)
- k. 教授室(食品栄養学科)
- l. 実験・実習室(生活環境デザイン学科)
- m. 設計制作室
- n. 教授室(生活環境デザイン学科)
- o. 研究室(生活環境デザイン学科)

PLAN S=1:1500

TOPICS 1

本計画は、敷地高低差を建築と密接に関係づける2つの提案により、敷地の持つポテンシャルを最大限に活かした計画となっています。一つはキャンパスモールによるレベル差の建築的解消であり、一つは地下に配置された講義室により拡張整備されたプラザです。

TOPICS 2

本計画は、プロポーザルによる選定後発足した「建設推進委員会」を通じて、学園代表者と日総建のコラボレーションによりまとめられました。主に建物機能や内外装・サインカースキームなどについて、オープンな議論がなされました。それにより、備品と建築空間とのマッチングや、プラザの学生デザインコンペ実施等、数多くの成果が上げられました。

(椋山女学園大学生生活科学部新棟プロポーザル 当選案)

DATA

敷地面積	30,850㎡
建築面積	2,096.23㎡
延床面積	11,290.62㎡
建ぺい率	33.91% (許容60%)
容積率	159.11% (許容200%)
構造・規模	SRC造、一部RC 地下2階、地上6階
最高高さ	35.76m
軒高	32.66m
階高	1階4.2m、2階4.0m等
天井高さ	3.0m、2.7m等
主なスパン	9.0m×10.8m
駐車台数	24台
設計期間	2002.08～2003.10
工事期間	2003.12～2005.07

▶ <http://www.nissoken.co.jp>